

インフルにも注意を！

新型コロナとの同時流行に備えて

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の収束がまだ見えない中、次に心配されるのは、秋から冬にかけてのインフルエンザとの同時流行です。新型コロナウイルス感染症とインフルエンザはいずれも伝染性の呼吸器疾患で、症状に発熱、倦怠感、咳など似ている点も多く、十分注意が必要です。感染予防対策は手洗い、うがい、マスク、3密回避などで、基本は共通するようです。

「今冬のインフルエンザとCOVID-19に備えて」と題した日本感染症学会の提言から、インフルエンザと新型コロナウイルスの主な相違点を紹介します。

【インフルエンザ】

症状：ワクチン接種などにより程度の差があるものの、しばしば高熱を呈する。

潜伏期間（感染してから発症するまでの期間）：1～2日

無症状感染：10%。無症状患者のウイルス量は少ない。

ウイルス排出期間：5～10日（多くは5～6日）

重症度：多くは軽症～中等症。

致死率：0.1%以下。

ワクチン：使用可能だが、季節ごとに有効性は異なる。

治療薬：オセルタミビル（商品名タミフル）など複数ある。

【新型コロナウイルス】

症状：発熱に加えて味覚障害・臭覚障害を伴うことがある。

潜伏期間：1～14日（平均5・6日）

ウイルス排出期間：遺伝子は長期間検出するものの、感染力があるウイルスの排出期間は10日以内。

重症度：重症になりうる。

致死率：3～4%。

ワクチン：開発中であるものの、現時点では存在しない。

治療薬：軽症例について確立された治療薬はなく、多くの薬剤が臨床治験中。